

学んで行動する 議会へ

市政調査会

〔研修日〕

令和2年1月28日

〔参加議員〕

16名

1月例会として、議員研修会を行った。議員必携・遠野市議



会例規集の内容をテーマに、グループに分かれ討議を行った後、元県議会事務局長等を歴任された小原敏文氏（現岩手県農業公社理事長）を講師に招き、「地方議会議員のあり方、求められる議員活動とは、当局と議会との役割」と題し、ご講演をいただいた。議会の使命を再確認し決意を新たにす研究となった。

総務常任委員会

〔視察日〕

令和元年

11月5～7日

〔視察先〕

熊本県菊池市
八代市
宇城市

〔参加委員〕

瀧本 孝一
小林 立栄
佐々木 恵美子
菊池 由紀夫
安部 重幸
佐々木 大三郎

◆都会にはない自然環境と都会と変わらない利便さを両立するために

友好都市である菊池市は、現代の地方都市が抱える農業後継者の

減少、高齢者の見守り、移動手段の確保、防災などの諸課題について、先進的企業と連携。発達した情報通信技術や革新的なアイデアを用いて解決の道を探る「菊池グローバルビレッジ構想」の実現に取り組んでいる。

・シェアリングエコノミーによる民家の空きスペースの有効活用

・クラウドファンディングの活用を推進

・農業IoTの推進

・全小学校へのプログラミング教育

など、行政は人材を含めノウハウを求め、企業はフィールドを求めている。互いの利益ある関係を構築することが重要とのことだった。

◆八代市協働のまちづくり推進条例

八代市は、協働の担

この課題に向き合うため、総務省の補助事業を活用し、RPAの取り組みを開始した。

職員給与、ふるさと納税、住民異動、会計、後期高齢者医療、水道の6分野に適用。業務の棚卸も図りながら、適用範囲を拡大している。

※RPAとは
ソフトウェアロボットにより、パソコン上で行うキーボード操作やマウス操作などを自動化することが可能になり、業務を自動化できる仕組み。

産業建設常任委員会

〔視察日〕

令和元年

11月20～22日

〔視察先〕

愛知県大府市
長久手市
岡崎市
東京都 豊洲市場

〔参加委員〕

多田 勉
照井 文雄
小松 正真
佐々木 敦緒
荒川 栄悦
新田 勝見

◆食と農の広場

「あぐりん村」

長久手市では、耕作放棄地を田園バレー構想に活かし、農業に通じたまちづくりに取り



あぐりん村農産物直売所

組む。都市近郊農業の活性化や地産地消、都市農村交流の促進を目的に、平成19年に農産物直売所やレストラン、パン工房などを備えた交流拠点施設を整備。農を通じて誰もが交流し、憩い、ふれあい、楽しめる場を提供している。

一過性のイベントではなく、常に集客に繋がる工夫がなされていた。また支配人は、全国から公募で採用され

ていた。

◆将来の森をどうするか。地域を巻き込んだ林業組織の取り組み

岡崎森林組合

〔額田林業クラブ〕

昭和51年発足。現在会員62名。平均年齢72歳。

ヒノキの徹底した枝打ちにより、まっすぐで無節の柱材生産を実現。展示会等で良質材と認められ、建築業者への高価格での販売に結び

つけている。その他、行政の指導を受けながら地元材の活用方法を検討し、女性部による林業副産物「つまもの（料理に添えられる花や枝、葉物など）」の販売に取り組んでいる。クラブ員の中には、兼業により自分の山の手入れもままならない方も多い。お互いの情報交換や林業施業の推進、品評会や出品、地場産材の建築物の視察を行い、会員相互の研鑽と林業の振興を行っていた。

また、地元中学校において林業体験学習を行い、間伐指導等も行っている。

さらに、「木の駅」プロジェクトを独自事業で行い、森林所有者が気軽に木材を出荷できる仕組みを構築。道路に近いところに土場（木材の集積所）を設けて、山主が軽トラで

◆遠野産ワサビの取り扱い状況を確認

豊洲市場

築地市場の代替施設として平成30年10月に開設・取引を開始した。ワサビは、産地の水・地形・苗などの条件により、品質が大きく変わる。夏場の温度管理、耐候性も必要とのアドバースをいただいた。